

静岡県で活躍する医師



磐田市立総合病院

病院長

山崎 薫 医師

—— 院長に就任してからの現況を教えてください。

山崎 医師 2024年1月で就任後1年が経過しました。副院長を務めていましたので院内での会議などはおおよそ勝手がわかっていましたが、毎月行われる病院開設者である磐田市長との懇談会、院内目標発表会や成果発表会、中東遠圏域5病院病院長・事務長会議、来年度新規採用職員の面接試験などなど初めて経験する行事が多々あり、その都度緊張の時間を過ごしました。なかでも日本医療機能評価機構の病院機能評価の受審は貴重な試練の場となりました。訪問審査日の先頭に行われた病院幹部による面接調査では、質問内容に応じてそれぞれの回答者が適格に回答し、当院が多くのすぐれた職員の集合体であることを改めて認識できました。

最も苦勞しているのは医師の時間外労働の上限規制への対応です。新しい労働スタイルを各診療科の先生方へ周知することに労力を費やしました。運用がうまく軌道に乗ることを願うばかりです。



—— 整形外科を専攻したきっかけと魅力を教えてください。

山崎 医師 私が高校生の時に入院したある大学病院の整形外科病棟は、院内で唯一ベッドでの喫煙が許されていました。今では考えられないことですが、整形外科の患者は手足は不自由であるが体は元気と考えられていたようです。医学生になって臨床実習が始まると整形外科病棟は悪性腫瘍の患者が少なく、看取りもまれであることに気づきました。整形外科の患者は元気で亡くなる人は少ない・・・これが整形外科を選んだ大きな理由でした。整形外科医となって市中病院に勤務していた時に、整形外科の入院患者数人が病院近くの酒屋の自動販売機に車いすや松葉杖で集まり酒盛りをしました。店からの連絡で病棟の師長と一緒に連れ戻しに行った経験もあります。これも今では考えられないエピソードです。

ヒトの身体運動は、骨、関節、軟骨、筋肉、靭帯、神経などの運動器の働きによって行われます。整形外科はこの運動器の不具合を治療する診療科です。現在は人生100年時代に突入していますが、もともと運動器の寿命は50～60年程度と思われ、還暦を過ぎるとあちこちの運動器にガタが来ます。これを修理しないことには移動もままらなくなりQOLは著しく低下します。ですから健康寿命の延伸にはなくてはならない診療科だと思っています。

—— 医師を目指す方や若手医師にメッセージをお願いします。

山崎 医師 私は“ポスト団塊の世代”と呼ばれる年代の人間ですが、現在の若手医師は“Z世代”と呼ばれている年代の若者です。物心がつく頃からモバイル端末に触れ、SNSを通じて交流することが当たり前でデジタルネイティブ世代とも呼ばれています。品物を購入する際には事前にしっかり情報収集して選択的な消費をしますが、一方で自分の好きなこと、もの、ひとにはお金をつぎ込むといった「推し」をもつことが多いようです。このようなコストパフォーマンスに加えてタイムパフォーマンスについても敏感で、仕事においても曖昧で属人的な指示や「普通はこうだろう」という暗黙の了解、忖度は好まない特徴があるそうです。

働き方改革を進めるなかで若手医師の考えを聞く機会がたくさんありました。もちろん昭和の医師像を押し付けるつもりはありません。むしろ若手医師の意見を聞き、共感しながら組織を構築していくべきだと感じています。みなさんは、おそらくICTの活用はお手のものでしょう。導入が勧められている医療DXについては卓越したアイデアを出してくれるのではないかと期待しています。2024年の仕事始めの式で磐田市長は今年のテーマを「共創」としました。病院も若手医師と共創です。



プロフィール

山崎 薫 医師

趣味

- ・家庭菜園
- ・スポーツ観戦
- ・トレッキング

- 1982年3月 浜松医科大学医学部卒業
- 1982年6月 浜松医科大学整形外科学教室入局
- 1985年9月 ハーバード大学ボストン子供病院 research fellow
- 1989年7月 磐田市立総合病院整形外科医長
- 1993年1月 浜松医科大学整形外科助手
- 2002年10月 浜松医科大学整形外科講師
- 2007年5月 浜松医科大学整形外科助教授(その後呼称変更で准教授)
- 2011年6月 磐田市立総合病院整形外科部長兼副院長
- 2019年4月 磐田市立総合病院副院長兼地域医療支援センター長
- 2023年1月 磐田市立総合病院病院長